

平成 26 年度「早期からの教育相談・支援体制構築事業」  
成果報告書

団体名

和歌山県教育委員会

概 要

1 事業の概要

就学指導段階における保護者、本人への情報提供の在り方や、個別の教育支援計画の活用に向けた作成プロセスの検討を進め、保育所、幼稚園から就学指導段階、また小学校段階へのスムーズなつながりが実現できるよう、紀の川市を推進指定地域とし、実践的研究を行った。

① 早期支援コーディネーターの配置と役割

推進指定地域では、早期支援コーディネーターを2名配置し、管内全ての小学校における就学時健康診断への参加や保育所訪問、個別の就学相談会を企画し、支援を必要とする幼児の特性の理解など実態把握に努めた。また、保健師や発達相談員等との情報共有を図りつつ、今後必要と考えられる支援内容等について、教育的視点から保護者への丁寧な説明を行った。

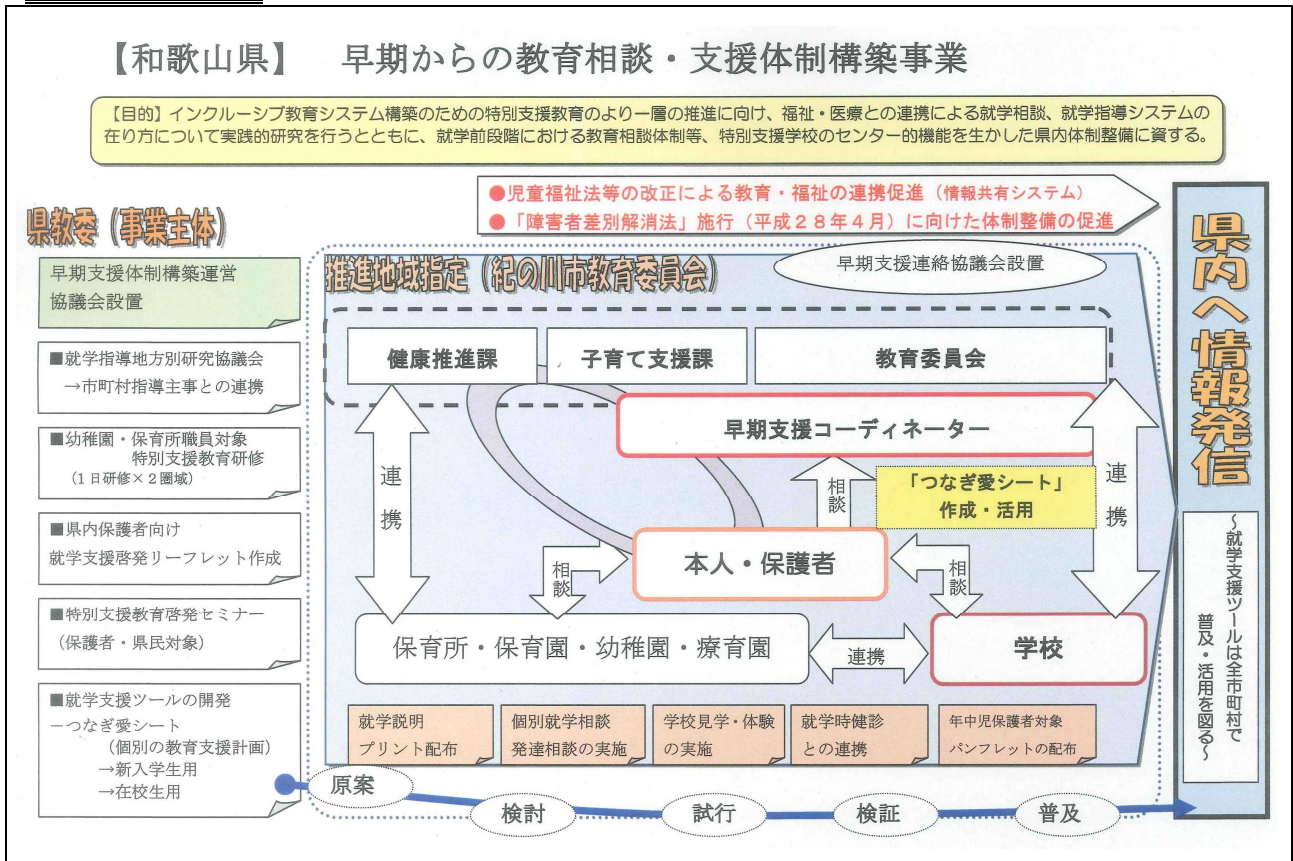
② つなぎ愛シート（個別の教育支援計画）の作成・活用

県及び4市教育委員会指導主事等の協働作業で、就学指導段階での活用を意図した合理的配慮の記載事項等を踏まえた「つなぎ愛シート（個別の教育支援計画）」（県試案）を策定した。推進指定地域では、保護者の協力を得て就学指導対象児全員分のシートを作成するとともに、就学先の学校では、校長を中心に、必要となる合理的配慮への共通理解を目的とした懇談会が実施され、保護者との合意形成を図った。

③ 普及啓発・研修

県・市レベルでは、私立を含む幼稚園・保育所等職員を対象とした特別支援教育研修や啓発セミナーの開催、就学支援啓発リーフレットの作成に取り組む等、早期からの一貫した就学支援の重要性について理解啓発活動を行った。

## <事業の概念図>



## 2 事業の成果

- ・推進指定地域による就学指導段階でのつなぎ愛シート作成を通して、就学先で必要と考えられる支援内容等に係る保護者との合意形成を図る過程や就学後の活用に向けた引継ぎの過程について1つの活用モデルを構築できた。
- ・市教育委員会、早期支援コーディネーターを交えた就学先となる学校での保護者事前懇談会の設定により、つなぎ愛シートに記載された保護者、本人の願いや就学後の支援内容等の確認作業が展開できること、入学を目前に保護者、本人の不安感を軽減することができた。
- ・就学先となる4つの学びの場やそれぞれの教育内容等の特徴を保護者に説明する役割を早期支援コーディネーターの業務の1つとしたことにより、推進指定地域の課題であった保護者、本人への教育に関する情報提供の充実が図られた。また、同コーディネーターが就学相談や学校見学等に同行したことで、保護者と学校、教育委員会との距離がより一層縮まり、早期からの支援に対する保護者理解の深まり、就学指導を順調に進めることができた。
- ・私立を含む幼稚園、保育所職員等を対象とした特別支援教育研修を県レベル、推進指定地域内で計画的に実施したことにより、障害特性への気付きや保護者支援において留意すべき視点、改正学校教育法に基づく就学指導の流れ等について共通理解を図ることができた。
- ・早期支援、教育相談に対する理解啓発を図るための保護者向け、関係者向けリーフレットの作成とともに、つなぎ愛シートの活用と就学先決定に至るまでの過程を説明したリーフレットを本年度の成果を踏まえて作成することができた。

### 3 事業の課題とその解決のために必要な取組

- ・ 就学先へ引き継がれたつなぎ愛シート（個別の教育支援計画）について、早期支援コーディネーターによる就学初年度のフォローアップ体制の仕組みや記載された支援内容の見直し方法、引継ぎに係るルール作りが新たな課題である。推進指定地域での実践的研究を進めるとともに、本事業の継続を通して普及啓発に関する提言書をまとめ、県内全域への啓発を図る。また、特別支援学校版つなぎ愛シートの開発と運用方法の検討を進める。
- ・ 平成 26 年度就学指導対象園児及び保護者（推進指定地域内）への追跡調査を実施し、改善点の分析と活用効果を検証する。また、保健部局・保育所等と連携を図り、年中児段階の全ての保護者を対象とした就学説明会等を実施し、早期支援への啓発活動を進める。
- ・ つなぎ愛シートの作成目的や手順、障害のある乳幼児への気付きと支援についての理解が深められるよう、私立を含む幼稚園・保育所職員等対象の特別支援教育研修を引き続き計画する。